

新型コロナウイルス対応緊急支援助成「脆弱性の高い子どもの支援強化事業」  
実行団体審査 審査員一覧（五十音順）

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

● 内部審査員

安部芳絵氏

工学院大学教育推進機構 准教授／公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 理事  
1975年大分県別府市生まれ。2006年早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程退学。博士（文学）。現在、工学院大学教育推進機構教職課程科准教授。専門は、子ども支援、子どもの権利条約、災害と子ども。単著に『子ども支援学研究の視座』（学文社、2010年）、『災害と子ども支援』（学文社、2016年）、『子どもの権利条約を学童保育に活かす』（高文研、2020年）。東京都立川市夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議副会長。一般財団法人児童健全育成推進財団理事。自然災害をはじめとした困難な状況下での子どもの意見表明・参加の権利保障と、参加を通じた子どもの回復・成長について研究している。

● 外部審査員

荒木寿友氏

立命館大学大学院教職研究科 教授

1972年生まれ。2003年京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。現在、立命館大学大学院教職研究科教授。専門は道徳教育、教育方法学、ワークショップ、国際教育。NPO法人EN Lab.代表理事。単著に『学校における対話とコミュニティの形成』三省堂、2013年、『ゼロから学べる道徳科授業づくり』明治図書、2017年、編著に『道徳教育はこうすればくもっと>おもしろい』北大路書房、2019年、『未来のための探究的道徳』明治図書、2019年など。「協働」、「対話」、「人間関係」というキーワードから教育方法の中でもワークショップに魅力を感じ、道徳教育とワークショップのコラボについて考えている。大学で教鞭を執る傍ら、2009年よりミャンマーの僧院学校の教育環境改善、特に教師教育に関わっている。

山野上麻衣氏

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程／日本学術振興会特別研究員

学部卒業後、東海地方の外国人集住都市の不就学対策事業にて、ブラジル人を中心とした子どもたちへの学習支援や家族への相談対応に従事。活動のなかで、不就学問題に教育課題としてアプローチすることの限界を感じ、通信制課程にてソーシャルワークを学ぶ。事業終了後、一橋大学

大学院修士課程に進学。修士課程修了後、リーマンショック後の経済危機対策として文部科学省の拠出で行われた「定住外国人の子どもの就学支援事業」（通称：虹の架け橋事業）を国際移住機関(IOM)にて担当。現在は一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程に在籍。移民を対象としながら、困難や不利のなかで育つ子どもや若者、またその支援について研究している。社会福祉士。

山野良一氏

沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授

北海道大学経済学部卒業後、神奈川県庁に入庁し児童相談所(児童福祉司)などで勤務。2005年から2007年にかけて、米国ワシントン大学ソーシャルワーク学部修士課程に在籍。ソーシャルワーク修士(MSW)。2010年、数人のメンバーとともに「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークを設立。現在、世話人。沖縄大学人文学部教授。著書に『子どもに貧困を押しつける国・日本』(光文社新書)、編著書に『子どもの貧困白書』『外国人の子ども白書』(ともに明石書店)『子どもの貧困ハンドブック』(かもがわ出版)などがある。「沖縄子どもの貧困実態調査」「旭川市子どもの生活実態調査」などに携わり、「子どもの生活実態調査研究コンソーシアム」運営委員などでもある。